

若者の社会参画に関する意見交換会実施報告書

開催日時	令和8年4月26日（日）午前10時00分から午前12時00分まで
開催場所	生涯学習センター
出席議員	<p>【広報広聴会議】 委員長：川本伸（誘導及びグループ③リーダー） 副委員長：竹岡力（受付及びグループ③進行） 高橋いずみ（受付及びグループ④進行） 松岡和行（誘導及びグループ⑥進行） 堀りょういち（受付及びグループ⑤進行） 高橋英昭（誘導及びグループ①進行） ふじそのあき（受付及びグループ②進行） ひろなか信太郎（受付及びグループ⑦進行）</p> <p>【未来を担う若者支援検討協議会】 委員長：本石篤志（報告及びグループ①リーダー） 副委員長：大貫次郎（司会及びグループ④リーダー） 泉谷翔（誘導及びグループ②リーダー） 加藤ゆうすけ（誘導及びグループ⑦リーダー） 長谷川昇（誘導及びグループ⑤リーダー） 井坂直（誘導及びグループ⑥リーダー） 葉山なおし（誘導及びグループ④リーダー）</p> <p>※開会・閉会のあいさつとして、加藤眞道議長及び土田弘之宣副議長が出席</p>
参加者	28名（申込28名）
実施内容	<p>【第1部】報告 ・現在検討中の「若者が活躍できるまちづくりのために必要な取組」の説明</p> <p>【第2部】意見交換 ・グループに分かれての意見交換 ・グループごとの主な意見の発表</p>
実施結果 （主な意見）	別添

横須賀市議会議長 様

令和8年5月8日

上記のとおり報告します。

広報広聴会議委員長 川本 伸

若者の社会参画に関する意見交換会

意見まとめ

グループNo.	グループ①
担当議員	リーダー：本石篤志委員長 進行：高橋英昭委員
参加者	4名
意見	<p>本市市議会が検討している「若者が活躍するまちづくりのため今後市が取り組むべき内容等」の項目別に以下の主な意見がありました。</p> <p>1 若者がつながる、若者とつながる</p> <ul style="list-style-type: none">① 若者向けリール動画において、市職員や市議会議員がインフルエンサーや漫才師などを模倣し、若者言葉を用いて、若者が「押し活」したくなるようなエンターテイメント性溢れる情報発信を心掛けていただきたい。② 社会参画に関する二次元コードによる意見募集のポスターを若者に作成していただく。③ ごみ収集ボランティア活動の参加者に証明書や参加証を交付すれば若者の参加者が増える可能性があると考えます。④ Instagram や TikTok において若者の社会参画に関する広告を流し、アンケートを実施する。⑤ 若者の間で話題となっていることを「これってどうなの？」とのテーマで動画を作成し、市議会議員がコメントを情報発信する。⑥ 若者の日常は市役所や市議会議員が深く関り支えていることが認識できる動画を作成し情報発信する。⑦ サブカルチャーとコラボした取り組みを実施する。 <p>2 若者の声を聴く、若者の声を反映する</p> <ul style="list-style-type: none">① 「若者議会」という常設の会議体を設けると堅苦しいイメージが先行する上、会議体に参加した一部の若者の意見のみが市政に反映してしまうことを懸念する。② 当該意見交換会の様な気軽に語り合える取り組みを継続して実施していただきたい。③ 「若者議会」と「意見交換会」を交互に行なうと若者の社会参画への取り組みが引き締まる。④ 将来への不安が政治へ興味を持つきっかけとなり、積極的な社会参画への足掛かりとなると考えられるので、その気づきを与えられる機会を設けていただきたい。⑤ 審議会等への参加を義務付ける必要はない。⑥ 審議会における審議内容について若者から意見を募り、若者が参画しやすい審議会を発足させる。 <p>3 若者のチャレンジを応援する</p> <ul style="list-style-type: none">① 市役所と市内自治体の連携を強化し、インターンシップ制度を充実

	<p>させる。</p> <p>② チャレンジする若者を支援するのではなく、対外的に称賛していく。</p> <p>③ 現在の若者は恵まれすぎているにも拘らず応援しすぎていると考える。</p> <p>4 前記以外の検討すべき取り組み</p> <p>① 全市的に若者が作成する町内会・自治会ホームページや町内会・自治会新聞の発行を促していく。</p> <p>② 町内・自治会館を利用した、中学生・高校生・大学生が主催するイベントを開催する。</p> <p>③ 町内会・自治会活動に参加した若者に活動証明書を発行する。</p>
<p>その他 (第1部の 報告に対する 質問等)</p>	<p>なし。</p>

広報広聴会議委員長 様

令和8年4月28日

上記のとおり報告します。

記録者 本石 篤志

若者の社会参画に関する意見交換会

意見まとめ

グループNo.	グループ②
担当議員	リーダー：泉谷翔委員 進行：ふじそのあき委員
参加者	4名
意見	<p>■地元（長野県）の自治会は参加するのが当たり前だが、進学で横浜に来てからは近所の人顔も名前もほとんど分からない状況だし、町内会・自治会の加入についても何の情報もない。別に困ってはいないが、もう少し情報が入ってくるようになれば、居住地域のことに興味を持てるかもしれない。</p> <p>■他の参加者が言うように、プッシュ式の情報が無ければ興味すら持てない。発信することよりも、若者に情報が届くことが大事だと思う。若者が主体となるような意見を集約できる場（若者会議など）は必要だと思う。</p> <p>■知り合いの紹介で半年前に横須賀に移住してきた。地元の静岡では男女共同参画の審議会に参加していたが、会議が少ないなど消極的な状況を打破してきた自負がある。審議会には当然若者の参画が必要だし、本当に若者の声が聞きたいなら若者が主体となる会議体の設置は絶対だと思う。</p> <p>■土地や空き店舗情報など開業・新産業の支援は必要だと感じている。他には個別具体的な事情（育児や貧困など）で前を向けない若者も多い。マイナスからプラスへの引き上げ策も必要だと思うので、もっと若者が気軽に相談できる窓口が欲しい（地元のアニキ的な）。</p>
その他 （第1部の 報告に対する 質問等）	

広報広聴会議委員長 様

令和8年4月30日

上記のとおり報告します。

記録者 泉谷 翔

若者の社会参画に関する意見交換会

意見まとめ

グループNo.	グループ③
担当議員	リーダー：川本伸委員長 進行：竹岡力副委員長
参加者	4名
意見	<p>私たちグループ③では、主に次のようなご意見がありました。</p> <p>【意見交換会に参加した動機】</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者向けの政策が多いと感じているため、若者の意見も取り入れていただきたいと思ったから。・ゼミで意見交換会の参加を進めていただいたから。 <p>【若者に対する情報発信について】</p> <ul style="list-style-type: none">・地元の情報誌は読まないが、もし手元があれば読んでいる。・様々な情報を SNS 等で発信していると思うが、登録をしていないため情報が届いていない。・若者に興味を抱かせるような発信方法、また内容が必要。 <p>【若者の意見を聴取する会議体を設置することについて】</p> <ul style="list-style-type: none">・会議体を設置して行政の堅苦しいイメージを変えたほうがいい。・会議に参加することによる参加証などがいただけると、参加するモチベーションに繋がる。 <p>【審議会等に委員としての参画について】</p> <ul style="list-style-type: none">・若者の意見等も取り入れるべきだと考えるため、若者の枠をつくり委員として採用したほうがいいと思う。・専門的な有識者の方々と審議するのは緊張してしまうため、若者だけの会議を設定してほしい。 <p>【若者に対し政治や選挙意識の向上を図ることについて】</p> <ul style="list-style-type: none">・学校教育の一貫として、すでに実施されているところもあるが、模擬投票等を積極的に実施することにより、選挙に対しての意識が高まるのではないか。・他都市の取り組みでもあるが、例えば選挙の投票に行ったら何か特典があるというような取り組みがあると、関心が高まるのではないか。 <p>【若者が地域活動等に参加しやすくなる環境づくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none">・町内会・自治会のイベント情報等が分かれば参加したい。

その他 (第1部の 報告に対する 質問等)	
--------------------------------	--

広報広聴会議委員長 様

令和8年4月30日

上記のとおり報告します。

記録者 川本 伸

若者の社会参画に関する意見交換会

意見まとめ

グループNo.	グループ④
担当議員	リーダー：大貫次郎副委員長、葉山なおしオブザーバー 進行：高橋いずみ委員
参加者	4名
意見	<ol style="list-style-type: none">1. 若者がつながる。若者とつながる。 情報収集の媒体はインスタ・SNS 行政の媒体（LINE等）は登録してまで活用しない HPも閲覧しない リール動画なら閲覧する 広報誌・町内会・自治会の回覧板から情報を得ている 情報収集の目的に応じてつながり方（方法）が違うのでは 町内会・自治会は高齢者のイメージが強いため馴染めない 町内会・自治会が何をしているのか分からないのでつながらない2. 若者の声を聴く、若者の声を反映させる。 行政アンケートは重たい。圧を感じる 堅苦しい内容は興味なし 若者が参加して媒体を検討することが望ましい 議員の存在は遠い 学校で広聴会や身近な話をして欲しい 若者の集まりに積極的に来てほしい 町内会・自治会で、若者の希望や思いは反映されにくい3. 若者のチャレンジを応援する。 行政主導での応援より若者に託して欲しい 産学官連携でチャレンジを応援して欲しい 若者に任せる事が重要 専門的知見のある方とコラボも必要 Uターン一人暮らし支援を望む 価値観を強要する職場は望まない（チャレンジし難い）4. その他地域活動参加について 親世代との交流についてはテーマによる 活動場所を提供されても活用しない 自主的な課題感の中で活動したい 自主的なコミュニティの中で活動したい5. 若者会議について 目的を定めて実施できれば意義がある 始めてみる事が重要 大人はオブザーバーでの参加を望む

	<p>実施する前からリスク管理は望まない 試行錯誤の中で進めれば良いのでは</p> <p>5. 財源確保について 予算があれば活動しやすい 予算施行されない年があっても良いのでは</p> <p>6. 審議会について 審議会の内容が経験不足で分からない場合でも参加したい 審議会という名称で引いてしまう 参加したいと思うが入りづらさもある 学ぶ立場であれば参加したい</p> <p>7. 選挙について 選挙権を得た嬉しさで投票に行っている 選挙啓発の学びを受けているので投票に行く 推し議員がいるので投票に行っている 政党や政策で決めている 主権者教育の重要性を感じている SNS の影響が強いと思う 模擬選挙の効果を感じている</p> <p>最後に すべてに於いて「若者に託す」ことを求める</p>
<p>その他 (第1部の 報告に対する 質問等)</p>	<p>特になし</p>

広報広聴会議委員長 様

令和8年4月27日

上記のとおり報告します。

記録者 葉山 なおし

若者の社会参画に関する意見交換会

意見まとめ

グループNo.	グループ⑤
担当議員	リーダー：長谷川昇委員 進行：堀りょういち委員
参加者	4名
意見	<p>若者参画に関する意見交換会 概要報告 5 グループ</p> <p>1. 開催趣旨</p> <p>若者の声を市政や地域づくりへどのように反映していくかをテーマに、学生・社会人・議員等による意見交換を実施した。特に、若者会議等の設置・若者の審議会参画・SNS・コミュニティ形成・地域活動との接続 などについて、若者当事者の視点から意見を聴取した。</p> <p>2. 全体を通じた主な認識</p> <p>議論全体を通して、「<u>若者参画そのものは必要である</u>」という認識は概ね共有された。一方で、<u>単に制度を設けるだけでは機能せず、「参加したくなる設計」が極めて重要である</u>という意見が多数を占めた。</p> <p>3. 主な議論内容</p> <p>(1) 若者会議・会議体の設置について</p> <p>◎ 主な意見</p> <ul style="list-style-type: none">・ 若者の声を政策に反映する場合は必要・ <u>ただし、大人がテーマを決めて若者を呼ぶ形では不十分 課題設定の段階から若者が関わるのが重要</u>・ <u>深い議論を行う場と、広く意見を集める場の両方が必要</u> <p>◎ 懸念として出た意見</p> <ul style="list-style-type: none">・ 一部の意識が高い若者だけに偏る可能性・運営負担・予算負担・成果が見えないと継続しない <p>◎ 特徴的な意見</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>「参加した結果、何が変わったのか」が見えるのが重要</u>・ 「若者会議」など硬い名称は参加ハードルになる・ <u>交流・コミュニティ形成が継続参加につながる</u> <p>(2) 若者の審議会参画について</p> <p>◎ 主な意見</p> <ul style="list-style-type: none">・ 若者を審議会へ積極的に登用することには一定の意義がある・ 若者自身の成長や育成にもつながる

- ・特に教育・まちづくり・子育て分野は親和性が高い

◎ 一方での意見

- ・専門性が求められる分野では適さない場合もある
- ・一律義務化ではなく、分野ごとの柔軟な運用が望ましい

◎ 議論の整理

「若者を入れるかどうか」ではなく、「どういう形なら若者が活躍できるか」という視点が重要であるとの認識が共有された。

(3) SNS・情報発信について

◎ 主な意見

- ・行政発信だけでは若者には届きにくい
- ・若者に影響力を持つ人とのコラボが有効
- ・**SNS** 単体ではなく、リアルなコミュニティと組み合わせることが重要

◎ 指摘された課題

- ・情報は流れても「参加」には直結しにくい
- ・信頼できる人・コミュニティ経由の方が参加につながりやすい

(4) コミュニティ・つながりについて

◎ 多く出た意見

- ・政策議論そのものより、「人とのつながり」に価値を感じる
- ・学校・職場以外の横のつながりが不足している
- ・気軽に集まれる場が必要

◎ 参加しやすい条件として出たもの

- ・夜間・土日開催・オンライン参加
- ・ゆるい雰囲気・交流時間の確保
- ・ポイント・特典等のインセンティブ

(5) 地域コミュニティ・町内会・自治会について

◎ 主な意見

- ・若者にとって町内会・自治会は存在や役割が見えづらい
- ・一方で、本来は地域の重要なコミュニティ基盤である
- ・若者が関わりやすい形への再設計が必要

◎ 話題となった視点

- ・祭りやイベントを軸にした地域コミュニティ
- ・「会議」ではなく「活動」から関係が生まれる可能性

	<p>4. 議論を通じて見えた重要な視点 「共有」が出発点</p> <p>◎ 参加者からは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>時間の共有・空間の共有・情報の共有・体験の共有</u> が重要であり、「共有 → 共感 → 参加 → 共存」という流れが、若者参画において重要ではないかという意見が出された。 <p>5. 全体まとめ</p> <p>◎ 今回の議論を通して、 <u>若者参画に必要なのは、「制度を作ること」ではなく「参加したくなる環境を設計すること」</u> であるという認識が共有された。</p> <p>◎ 特に重要な要素として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>「最初から関わること」・「成果が見えること」・「つながりが生まれること」・「気軽に参加できること」</u> などが挙げられた。 <p>また、<u>短期的には交流型コミュニティや小規模な実践、長期的には学校教育等を通じた参画意識の醸成が必要</u>であるという方向性も確認された。</p> <p>6. 今後に向けて</p> <p>今後は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>小規模な実践・実証・若者が参加しやすい場の試行</u> ・ <u>コミュニティ形成と政策参加の接続</u> ・ <u>成果のフィードバック</u> などを重ねながら、 <u>「若者が自然に地域や市政へ関わっていきける仕組み」</u>を構築していくことが求められる。 <p style="text-align: right;">以上。</p>
<p>その他 (第1部の報告に対する質問等)</p>	<p>報告に対しての質問は特になかった。</p>

広報広聴会議委員長 様

令和8年5月6日

上記のとおり報告します。

記録者 長谷川 昇

若者の社会参画に関する意見交換会

意見まとめ

グループNo.	グループ⑥
担当議員	リーダー：井坂直委員 進行：松岡和行委員
参加者	4名
意見	<p>1 【若者がつながる、若者をつながる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を使わない日はない。インスタグラムや X のニュースから情報収集。 ・ X は見ない。TikTok の映像はインパクトがある。切り抜き動画の内容が正しいかは確認するようにしている。冊子や紙媒体は見ない。 ・ インスタグラムか X を使う。テレビはスポンサーに悪いことは言わないので見ない。年配の方には冊子は必要。 ・ X を使うことが多い。SNS はファクトチェックが必要。 ・ SNS の活用方法には気を付けるべき。 ・ SNS は更新がないと見ようと思わない。常に発信することが大事。 ・ ネットをよく見る。家にそもそもいる時間が少ない。バイトなどで忙しい。一方で家に一人である若者も多い。子育て世代の声とアンテナが届かない若者に（必要な情報を）どう伝えるか。若者が横須賀市の地域活動に参加するには、環境的余裕が必要。例えば、働く若い世代に財政的支援。 ・ 若い世代の支援にお金をかけられるように。（若い世代が高齢者を支えるため） ・ 選挙を若い世代に行ってもらおう。 <p>2 【若者の声を聴く、若者の声を反映する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や団体で参加できるようにする。例えば高校や大学に議会側が直接出向いて行けば若者の声は聴ける。（参加するメリットとして）学校側は学生の参加を単位として認めて、企業は研修など業務の一環とするなど。 ・ 授業参観（中学・高校）などに議員さんが行くことで関わりやすくなる。 ・ 会議体に参加するにはモチベーションが必要。 ・ SNS 情報発信を若者から学んでみたらよい。
その他 （第 1 部の報告に対する質問等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者が参加できる状況や環境をどうつくるか。女性は外に出て働いている。子育てする若い世代をとどめるには子供が安心して学校終わりにいれる公共施設（いわゆる青少年の家など）の設置が必要。青少年の家がなくなってしまった。学童は高い（利用料）。公園の遊具は古くボール使用禁止が多く居場所がない。家で SNS ばかりになってしまう。 ・ 政策提言よりも条例をつくってほしい。提言だけで終わってしまう。物足りない。条例のほうが目に見える。 ・ 話題に上がるポジティブな条例づくり。（香川県の 18 歳未満ゲーム・スマホ規制条例ではなくて） ・ 若者のことは若者で決めたい。 ・ 学校や公共施設の整備。（トイレは特に、女性の生理用品を常備設置など）

<ul style="list-style-type: none">・市議会ガイドは必要か。効果はあるのか。これに予算かけずに若者に予算をかけてほしい。・横須賀市独自の若者支援はない。高齢者支援ばかりでは。・自分が高齢になったら若者のことを考えられるだろうか。・若い世代の支援にお金をかけられるように。(若い世代が高齢者を支えるためにも)・今日は参加してディスカッションがおもしろかった。楽しかった。・楽しくないと参加しない。(若者の社会参画全般も)・また参加してみたい。・アンケート用紙に「。」(句点)はあったほうが良い。LINEなどのやりとりの中では使わないが、用紙や書類の文章には違和感がある。

広報広聴会議委員長 様

令和8年5月7日

上記のとおり報告します。

記録者 井坂 直

若者の社会参画に関する意見交換会

意見まとめ

グループNo.	グループ⑦
担当議員	リーダー：加藤ゆうすけ委員 進行：ひろなか信太郎オブザーバー
参加者	4名
意見	<p>1. 概要</p> <p>AI 活用、SNS 発信、地域活動への参画、若者の意見反映、起業支援等について意見が出た。</p> <p>若者の社会参画を促進するためには、行政側が若者と同じ目線に立つ姿勢を見せ、精神的なハードルを下げることで、そして若者が参加によって何らかのメリットを得られる仕組みを構築することが重要であるとされた。また、生成 AI や SNS などのツール活用においては、単なる情報のデジタル化に留まらず、双方向のコミュニケーションや行政サービスの質の向上に繋げることが求められていた。</p> <p>2. 主な分類別の意見まとめ</p> <p>① 生成 AI の活用と DX (デジタルトランスフォーメーション)</p> <p>生成 AI の利便性と、それに伴う雇用や業務効率化への影響について、主に議員に対する質問という形で意見が出た。学生からは、生成 AI 活用の成功体験の共有もあった一方、市役所における導入効果や公務員の採用数への影響を懸念する声があった。</p> <ul style="list-style-type: none">● 参加者（議員からの説明含む）の発言引用<ul style="list-style-type: none">○ 「新入生への情報発信に AI を活用した結果、過去最高の人数を体験会に呼ぶことができた」（参加者）○ 「AI 活用により仕事の効率が上がるのは当然だが、これから就活をする学生としては（公務員の）採用枠を減らしてほしくないという思いがある」（参加者）○ 「AI 導入について、実際の人件費削減やアイデア創出など、どのような費用対効果があったのか見える化はされているのか」（参加者）○ 「AI 導入によって人件費削減などの具体的な数値効果はまだ出ていないが、24 時間チャット受付など提供できるサービスの幅が広がったという効果は感じている」（参加者からの質問に対しての返答・ひろなか議員より） <p>② SNS による情報発信とコミュニケーション</p> <p>行政が発信する SNS の堅さが課題として指摘された。若者の目に触れるためには、ユーモアや親しみやすさが必要であるとの意見が多く出された。</p>

- **参加者の発言引用**

- 「行政の SNS 発信がはっちゃけすぎたり楽しそうにしたりするのはダメという規定があるのか。不適切な内容でなければ、多少のユーモアがあっても良い。炎上系 Youtuber の起用は不適切。市長が歌って踊るのはやりすぎ」(参加者)
- 「市長がショート動画に出て、横須賀市の問題を話していたら意外性があるって見てしまうかもしれない」(参加者)
- 「YouTube よりも TikTok など短い動画の方が情報を得やすい」(参加者)

③ 町内会・自治会・地域活動への若者の参画

若者が地域活動に参加するためには、単なる労働力の提供ではなく、自身のキャリアや生活に直結するメリットの提示が不可欠であるとの意見があった。

- **参加者の発言引用**

- 「町内会・自治会に大手企業の OB などがいて、就活生として有益な話が聞けるのであれば、参加したいという動機付けになる」(参加者)
- 「仕事の実体験に関する情報があれば、話を聞く中でその人・その仕事に対して理解が深まると思うので、欲しい」(参加者)

④ 若者の意見収集とフィードバック

意見を届けるハードルを下げ、自分の声が実際に反映されたという手応え(見える化)が必要であるとの意見が共有された。

- **参加者の発言引用**

- 「行政への意見送信は窓口が分かりづらく、送ってもどうなるか見えない。また、他の人の質問やそれに対する回答が見えれば、自分も同じ温度感で質問しやすくなる」(参加者)
- 「若い人が『こうした方がいい』と提案し、行政側がそれを活用するリバースメンターのような仕組みがあれば面白い」(参加者)
- 「SNS でポジティブなことも含め、ポンポンと意見を言える環境が必要だが、顔が見えない SNS では叩かれる恐怖もあり、匿名性の確保も重要」(参加者)

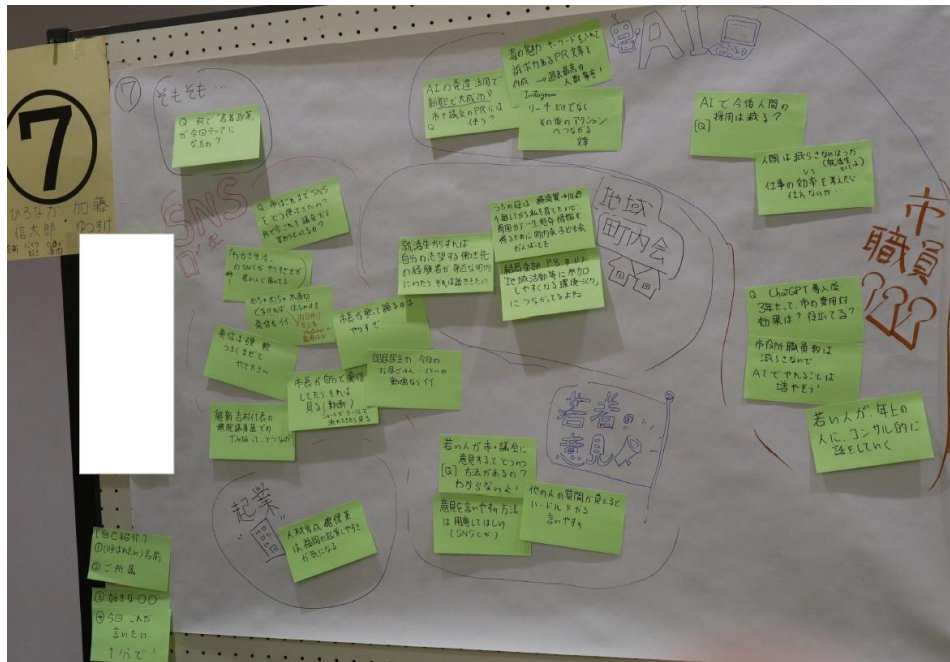
⑤ 起業支援と人材育成

福岡市の事例を参考に、横須賀市におけるスタートアップ支援や、起業しやすい街づくりの必要性について意見があった。

- **参加者の発言引用**

- 「福岡市のようにスタートアップ支援に注力し、人口増につ

なげている事例を参考に、横須賀市でも起業しやすい流れを作ってほしい」(参加者)



(画像：グループ7で使用した意見まとめ模造紙)

(以下参考：全7つのグループから最後に報告のあった内容をまとめたものの中における、グループ7の意見の位置づけ)

★=グループ7で出た意見

1. 意思決定の段階からの参画と対等な関係性

多くのグループが、若者を単なる「意見を聞く対象」ではなく、街づくりを共に行う「主体的なステークホルダー」として位置づけるべきだと主張している。

- 若者と行政が対等な目線で対話することを重視し、「若者のことは若者と一緒に考えて話して、一緒に決めていった方がやりやすい」との前提が示された。
- 一時的なヒアリングに留まらず、「意思決定をする段階から若者が入っていて、若者と一緒に、あるいは若者が主体的にやっていくってということがすごい重要」であると強調されている。
- テーマ設定などの「一番上流の部分の意識化から、そもそも入っていく」ことの重要性が指摘された。

2. 実効性と継続性を担保する条例の制定

若者政策を一過性のものにせず、強制力と継続性を持たせるために、条例という明確な形を求める意見が複数のグループから出された。

- 制度の安定性について、「条例にした方が強制力もあるし、良さも含めるし、継続した取り組みになるので、やった方がいいんじゃないか」との結論に至っている。
- 支援のあり方についても、「条例としてちゃんとはっきりとした形があった方が、支援になる」とし、法的な根拠を求めている。

3. 参画のモチベーション創出と経済的支援

若者が社会参画を行うための余裕の創出と、参加に対する具体的なメリット（リワード）の提供が必要であるとされている。

- 参加を促すきっかけとして、「参加証明書が出るのは、自信につながる」といった、形に残る評価が提案された。
- 経済的・心理的なハードルを下げるため、「参加するモチベーションが必要。アマギフ（アマゾンギフト券）とか、資格取得の経済的な支援が欲しい」、あるいは「交通費を支給する」といった具体的なリワードが求められている。
- そもそも若者が参画するためには、「参加できるだけの余裕が必要。生活だけで精一杯になっている状況が多くある」として、生活基盤への支援の必要性が説かれた。

4. 情報発信の改善と硬いイメージの払拭（★）

行政特有の堅苦しさを取り除き、若者が日常的に利用する SNS 等を活用した、視覚的・直感的なコミュニケーションへの転換が求められている。

- 既存の情報発信に対し、「紙媒体が多い。耳で聞いたら結構理解できる、という動画を作る必要がある」といった、アクセシビリティの向上が提案された。
- 行政のイメージについて、「市役所に対する硬いイメージがある。これを払拭するために、面白い動画を SNS で発信する」ことで、心理的距離

	<p><u>を縮めるべきだとしている。(★)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 議員や職員に対しても、「議員さんたちが SNS の情報発信の仕方を理解するために、若い世代の話を聞く」といった、双方向の学びが必要であると述べられた。 <p>5. フィードバックと繋がり構築</p> <p>自分の意見がどう活かされたかを知る手応えと、参画を通じて生まれるコミュニティの重要性が指摘された。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参画後のプロセスについて、「手応え、フィードバックみたいな部分もすごく大事。実際何がどう変わったんだろう、どう生かされるのかなみたいな部分も知りたい」との要望が出された。 <p>社会参画をきっかけとしたコミュニティ形成について、「コミュニティを作っていく側面もすごく大事。横のつながりを作っていきたい」との意見が示された。</p>
<p>その他 (第1部の報告に対する質問等)</p>	<p>意見出しのところで包含したため、ここに特記しない。</p>

広報広聴会議委員長 様

令和8年5月7日

上記のとおり報告します。

記録者 加藤ゆうすけ